

社会福祉法人 ながのコロニー 平成 27 年度 事業 報告 書

はじめに

急速な少子高齢化、地域社会の変容等により福祉ニーズが多様化する中、福祉サービスの主たる担い手である社会福祉法人が果たしていく役割はますます重要になっています。

社会福祉法人が備える公益性や非営利性に見合う経営組織や財務規律を実現し、国民に対する説明責任を果たすとともに、地域社会に貢献するという社会福祉法人の本来の役割を果たしていくよう法人あり方を見直す必要性から、平成 28 年 3 月 31 日社会福祉法等の一部を改正する法律が公布され、順次施行されることになっています。

改正の概要は、主に「経営組織のガバナンスの強化」では議決機関としての評議員会を必置、役員・理事会・評議員会の権限・責任に係る規定の整備等により、今日の公益法人に求められる内部統制の機能を十分果たせる仕組みにする。「事業運営の透明性の向上」では財務諸表、現況報告書等の公表に係る規定の整備を行う。「財務規律の強化」では内部留保の明確化、社会福祉事業等への計画的な再投資を行う。「地域における公益的な取組を実施する責務」では社会福祉事業及び公益的事業を行うに当たって、無料又は低額な料金で福祉サービスを提供することを責務として規定するものです。

改正内容については、今後、政省令、通知等により周知される事項もありますが、当法人としても今回の社会福祉法の改正を真摯に受け止め、社会福祉法人が社会から求められている負託に応えてまいりたいと考えています。

3 施設の経営状況については、ほぼ昨年と同様の状況となりましたが、利用される方が減少している中で、効率的な施設運営を目指すとともに、ワークサポート篠ノ井では利用される方の状況や状態を把握、意向を確認しながら、利用されている事業の目的に応じ必要な支援、介助を行い、地域移行を含めこれからの暮らし方を自ら選択できるよう、介護保険施設やグループホームなどの見学会を行い情報提供に努めました。

ハートフル五明では障害の重度化・高齢化等が進み介助や支援が増える中で、利用される方の状況、状態等を支援員、看護師、栄養士が毎日の健康確認やミーティングにより情報の共有を図り、統一した支援内容により安心して充実した生活が過ごせるよう努めました。

はあてい若槻では利用されている事業目的に応じ充実した利用となるよう、新たに施設外就労の開拓等による工賃の増額、創作活動では幅広い企画事業等に取り組みました。

また、各施設とも定員確保のため特別支援学校や相談支援機関等との連携、情報収集を図ることが課題となっています。

長野福祉工場の経営状況は、前年度より約 943 万円悪化し、約 1,120 万円の差損と厳しい状況となりました。就労支援事業活動では縫製事業で前年度より改善したものの、印刷・縫製・特例の合計で、約 249 万円悪化し、依然として約 2,466 万円の差損となりました。印刷部門の印刷担当者、営業担当者の補充・確保が課題となっています。福祉サービス事業収益は利用者数が減少、利用率の低下により訓練等給付費等が減少となりました。

I 法人本部

1 給与・労務・人事管理の推進

利用者の皆様の保護と障害福祉サービス等事業運営の適正化を図るため、法令遵守要綱及び法令遵守心得を基本に職員への周知を行いました。

2 職員研修の実施

職員の資質向上を図るため、職員研修実施要領に基づき、研修会等への積極的な参加と職場研修の充実に努めました。また、ゼンコロや各加盟法人と連携し、会議や研修への職員派遣を行いました。

資格取得では資格取得補助制度に基づき、社会福祉士の受験資格取得のための通信教育受講者3名に補助しました。

3 防災訓練の実施

消防計画に基づき、施設を利用されている方等の安全確保のため、篠ノ井施設・若槻施設とも、それぞれ年2回の防災訓練を実施しました。篠ノ井施設の秋の訓練においては、篠ノ井消防署指導の下、昼間の火災のほか夜間の火災を想定し、夜勤者2名及び五明区住民の協力による訓練を行いました。若槻施設においては、若槻分署指導の下、はあてい若槻、長野福祉工場それぞれで訓練が行われ、はあてい若槻では、徳間・若槻東条・上野各地区住民の協力を得て実施しました。

4 地域交流の実施

8月には篠ノ井施設で盆踊り・納涼パーティー（マジックショー）を実施しました。地域住民や後援会員にもご参加いただき、利用者の皆様と共に楽しく交流を図りました。

10月には恒例のコロニー祭、コロニーまつりが篠ノ井・若槻両施設で実施されました。

篠ノ井施設での第38回コロニー祭では、保育園児の鼓笛、小学生の和太鼓、チアダンス、大学生によるソーラン節、篠ノ井地区の大獅子舞、太極拳、ジャズ演奏で盛り上げていただき、模擬店や障害者施設の出店、地元農産物の直売など、大勢の皆様にご参加いただき、盛大に開催することができました。

若槻施設での第6回コロニーまつりでは、上野地区神楽保存会や若槻音頭・新町甚句保存会の皆様の演技、小学生・高校生の合唱、大道芸パフォーマンスなどで盛り上げていただき、模擬店や障害者施設の出店、など、大勢の皆様にご参加いただき、盛大に開催することができました。また、長野福祉工場の仕事を知っていただくため名刺作成及び転写体験コーナーを設けました。

その他、地元主催のイベント等へは、日頃の日中活動で作っているこんにやく・陶芸などの自主製品を販売するため積極的に参加しました。

5 情報公開

法人の事業報告及び決算内容や行事内容等を随時ホームページや広報誌へ掲載し、情報公開に努めました。

6 苦情相談

苦情相談窓口寄せられた苦情はありませんでしたが、長野福祉工場におけるパワーハラスメントの被害報告が複数件寄せられました。これを受け法人では、行為者の懲戒及び「ハラスメント防止規程」策定による再発防止策を講じました。引続き職員の教育、アンケートや聴き取り等による実態把握を定期的に行い、関わ

る人すべてが尊重される、働きやすい職場づくりを目指します。

II ワークサポート篠ノ井

利用状況

施設入所支援	生活介護	就労移行支援	就労継続支援
33名	48名	0名	8名

それぞれのサービスを行うに当たり皆さんの意向を確認しながら必要な支援を行いました。

1 施設入所支援

施設に入所している皆さんの状況や状態に応じ、必要で適切な支援と介助を行い安定した生活を提供するように努めました。

2 生活介護

適切な支援と必要な介助及び相談援助を行うことで利用者の皆さんの思いを確認し、張り合いのある日中サービスを提供しました。

日中活動支援の生産活動については、やりがいや意欲を持って作業に取り組んでいただきました。作業種目の見直しと職場の配置や席替えを行うなど環境面を改善し、また、事業者との連絡を密に取り連携を深めることで、作業量の安定と工賃の確保に努めました。

生活面については、その人らしい生活に向けた支援と、快適な住環境や安心して過ごせる暮らしを提供するように努めました。高齢化と共にご自身で健康管理が難しくなっている方に対して、食事や排便の確認と入浴時の身体状況確認などで対応しました。全員に対しては朝礼時や休日の巡室など定期的な健康確認を継続しました。

また、介護保険施設への入所希望者に対して見学や入所手続などの支援を行い自ら選択できる機会を提供しました。

社会参加支援では施設内の草取りに合わせ近隣の清掃活動を行いました。行事については小グループに分かれて実施したグループ行楽や全体での行事など内容も含め皆さんに楽しんでいただけた様子でした。

健康面については病気予防のための身体状況を把握し必要な支援を行いました。毎朝10分ほどのストレッチ体操は継続して実施することができました。

衛生管理については全居室の清掃を行い、それぞれに意識を持って整理整頓ができるよう支援しました。また、浴室掃除、トイレ掃除、ごみ捨て、寝具交換、インフルエンザやノロウイルスの感染予防のための手すり消毒等を行いました。

機能維持訓練については定期的にリハビリクリニックを受診し訓練内容の見直しを行いました。ADL面が低下した方については、リハビリクリニックを受診しリハビリメニューの作成と機能訓練の支援を行いました。

申請事務及び手続代行業務については障害福祉サービス利用申請、補装具支給申請、障害支援区分認定申請、要介護認定申請等を行いました。

3 就労移行支援

今までは就職に向けた取り組みを中心に行ってきましたが、利用者がいない状況から活動内容の見直しを行いました。その結果、就職にこだわらず生活リズムを整える、様々な経験をともし目標を探っていくなど利用される皆さんの状況や状態を把握し、その方に合わせた取り組みを行うこととしました。障害者雇用を行っている企業見学

と、他事業所や関係機関を訪問し繋がりを作ることができ、実習先の確保ができました。

実習については、可能性と経験という点から生活介護と就労継続支援 B 型の利用者の中から数名の方に取り組んでいただき、それぞれの課題などが確認できる良い機会になりました。

利用者の確保が課題となりますが、4月から養護学校卒業生 2 名の方が利用となります。今後も、養護学校等と連携を図り利用者の確保を行い、就職を目指す方やそれぞれの方の課題や必要な支援内容について皆さんの思いを確認しながら進めてまいります。

外部の訪問など

事業所見学	学校訪問	企業訪問(見学含む)	関係機関訪問
3 か所	14 か所	25 社	14 か所

4 就労継続支援 B 型

生産活動では軽作業を中心に取り組んでいただき、生活面では皆さんの思い等を確認し支援を行いました。

作業実績

	年間売上額	年間工賃支給額	月平均工賃額
生活介護	14,328,931 円	10,343,225 円	17,591 円
就労移行	26,060 円	26,060 円	13,030 円
就労継続 B 型	1,972,220 円	1,972,190 円	18,783 円
合計	16,327,211 円	12,341,475 円	17,758 円

5 保健

(1) 検診

ア 事業所内検診を春（4 月）及び秋（10 月）に血圧測定、検尿、視力測定（秋のみ）を実施しました。

イ 嘱託医による定期検診を月 1 回実施し、7 月には内科検診を実施しました。

ウ 7 月の結核検診では精検者はいませんでした。また、必要に応じて嘱託医による胸部レントゲン検査を行いました。

エ 乳癌検診は市民検診を利用して行いましたが精検者はいませんでした。また、子宮癌検診は高齢化と障害の重度化により受診可能な方のみ実施し、受診の難しい方については嘱託医に血液検査(腫瘍マーカー)を依頼し実施しましたが精検者はいませんでした。

オ 胃カメラや腹部超音波検査は、嘱託医やかかりつけ医と連携をとりながら行いました。

(2) 処置

ア 健康状態把握のため、チェック表を継続し活用しました。

イ 血圧測定は毎週 1 回の他に症状に応じて行いました。体重測定は毎月 1 回測定し健康管理に努めました。測定時に脈拍の異常があった方については嘱託医やかかりつけ医に相談し適宜対応しました。

ウ 循環障害により足の皮膚炎を起こしやすい方については、処置を継続し症状の早期発見と悪化予防に努めました。

エ 3か月に1回下肢の皮膚状態を観察し把握することで、適宜対応することができました。

(3) 投薬

嘱託医及びかかりつけ医からの定期投薬は29名、服薬管理の方は5名、うち投薬カレンダーを使用している方は1名でした。

(4) 感染症対策

過敏反応による未接種1名を除きインフルエンザの予防接種を全員が実施しました。うがいと手洗いの徹底と流行期の外出自粛を行いました。2月にインフルエンザ感染者15名の集団感染となり、保健所への届出と必要な対応を行いました。うち1名がインフルエンザによる肺炎で入院となりました。

(5) 入院

内科	外科	皮膚科	精神科	計
3名	2名	0名	0名	5名

6 給食

- (1) それぞれの身体状況に応じた食事の提供を行い、健康維持・疾病の悪化予防と安定に努め、看護師と連携を図り主治医の指示や体重変化に注意し、食事内容の変更等の改善に努めました。
- (2) 嗜好調査を含めた個別面談を行い食事についての要望を取り入れ、食習慣の改善に繋げました。課題のある方については、看護師や支援員と連携し、改善に向け支援してまいります。
- (3) 保健室の依頼により個別栄養指導や常時欠食の多い方についての見直し等を行い、必要な支援を行いました。
- (4) インフルエンザの蔓延時には、感染が拡大しないよう事業所ごとに食事時間をずらして食事提供を行いました。
- (5) 食事は季節感を感じていただけるよう旬の食材や行事食を取り入れ、マンネリ化しないように、また、安全で安心な食事提供に努めました。
- (6) 委託先スタッフと定期的なミーティングを行い常に連携を図ることで、個人対応等を共有し、より円滑な給食業務と衛生管理を行うように努めました。

Ⅲ ハートフル五明

利用状況

施設入所支援	生活介護
29名	31名

1 日常生活上の支援

年間を通じて、朝の居室巡回での健康確認や、感染症予防のための手洗い・うがいを行いました。特に健康面で確認が必要な方については、看護師と連携しながら検温・血圧測定で体調変化の早期発見に努めました。

インフルエンザ発症（感染者1名）の際には個室隔離、全利用者の検温等で感染拡大の防止に努めたことで、終息させることができました。

健康確認と合わせて、朝の歯磨き介助、入れ歯の着脱確認など口腔ケアも引き続き

行いました。

衛生保持としては、居室清掃、シーツ交換、更衣介助、洗濯、入浴介助などの支援を行いました。特にリハビリパンツ使用の方が増えたこともあり、対象者の毎日の着替え、パンツ交換、着替え確認を行いました。

施設外での活動として、創作活動での買い物外出の他、善光寺御開帳、秋の紅葉と信州新町・さざり荘でのジンギスカンを楽しむといった行事を行い、春・秋の季節を感じる外出を楽しんでいただくことができました。

2 日中活動の支援

創作活動では、書初め、季節ごとの寮内飾りつけ、野菜作りなどを行いました。収穫したサツマイモを使用した焼き芋作りや、バレンタインクッキングとしてお菓子作りなども行いました。その他、コロニー祭に向けたハンドベルの練習、支援員の特技を生かした英語教室などの活動も取り入れました。

生産活動としては、H27年12月をもって丸金のケース拭き取り作業が終了したため、新たに自主生産品の制作を始めました。編み物・ルームバンド・ゴム編み座布団・陶芸を日中活動として取り組み、完成した作品はバザー、もんぜんぷら座での販売を始めています。

活動内容については、皆さんの声やアイデアを取り入れながら引き続き検討してまいります。

3 保健

(1) 検診

ア 事業所内検診を春（4月）及び秋（10月）に血圧測定、検尿、視力測定（秋のみ）を実施しました。

イ 嘱託医による定期診察を月1回実施し、7月には内科検診を実施しました。

ウ 結核検診は7月に行い、精検者はいませんでした。嘱託医で胸部レントゲンを行うことが多く、定期的に検査や紹介によりCT検査を行いました。

エ 乳がん検診は市民健診を利用して行いました。子宮頸癌検診は高齢化と障害の重度化により受診可能な方のみ実施、受診困難な方は嘱託医により血液検査（腫瘍マーカー）を実施しました。精検者はいませんでした。

オ 胃カメラや腹部超音波は全員嘱託医及び主治医で行い、再検査の場合でも円滑に行われました。

(2) 処置

ア 褥そうの処置は、定期的に受診し医師の指示のもと、毎日支援員・看護師で処置を行い感染悪化等することもなく経過しました。

イ 頭部や全身の皮膚疾患は毎日観察を行い軟膏を塗布しました。

ウ 血圧測定は原則週1回、体重測定は毎月1回測定し、健康管理に努めました。

(3) 投薬

嘱託医及び主治医による定期投薬は28名、服薬管理は19名でした。内科以外の投薬も多く、管理には細心の注意を払いました。

(4) 感染対策

インフルエンザの予防接種は全員が行いました。感染者は1名ありましたが、感染拡大は防ぐことができました。

(5) 入院

内科	脳外科	整形外科	皮膚科	外科	計
3名	2名	1名	1名	1名	8名

※大腸内視鏡は、車いす利用者のため入院して1名検査しました。

※疾患による入退院を繰り返した方が1名いました。

4 給食

- (1) 日々看護師・支援員と情報を共有し、それぞれの身体状況に応じた食事提供を行い、健康維持・疾病の悪化予防と安定に努めました。また、主治医の指示や摂取状況・体重変化に注意し、食事内容変更等の改善に努めました。
- (2) 嗜好調査を含めた個別面談を行い、食事全般についての要望取り入れや食事形態などの確認や改善を行い、楽しく食事ができるよう努めました。
- (3) 昼食前に嚥下体操を行い、嚥下機能の低下予防に努めました。
- (4) インフルエンザ蔓延時には、感染が拡大しないよう事業所ごとに食事時間をずらして食事提供を行いました。
- (5) 食事は季節を感じて頂けるよう、旬の食材や季節の行事食を取り入れマンネリ化しないように、また安全で安心な食事提供に努めました。
- (6) 委託先スタッフと定期的なミーティングを実施する等、常に連携を図ることで個人対応等を共有してより円滑な給食業務と衛生管理を行うように努めました。

IV はあてい若槻

利用状況

生活介護	就労継続支援 B 型
13名	22名

新規利用開始の方が2名、退所者が1名おり、利用人数は1名増にとどまりました。利用希望者の見学は何件かありましたが、複数名増加には結び付かず、引き続き定員確保が課題となりました。

1 支援サービス

(1) 生活介護

充実した日中活動を行うことができました。作業はミスのないように丁寧に行いました。自主生産品については販売できる喜びを味わえるように一生懸命取り組み、コロニーまつり等で販売し好評でした。

創作的な活動では、定番の音楽療法、読み聞かせ、野菜作り、料理教室等を行い、時には足湯や土雛人形作り等バスでの外出も企画し、幅広い事業に取り組むことができました。

(2) 就労継続支援 B 型

長野福祉工場との連携による印刷物の仕分け、丁合、梱包作業及び縫製作業は、年間を通して数量・入荷時期が比較的安定しつつあります。併せて、外部事業者の印刷物作業も入荷時期が安定しているため、作業計画が立てやすくなり、それらを見込んだ受注を心掛けることができました。

新たにジャム加工会社から受注した作業については、施設外就労（取引先の工場に出向き作業する）を行っております。作業に当たる利用者の皆さんは、訪問先企業の従業員が作業する姿を目の当たりにし、大きな刺激を受け、仕事に対して取り組む姿勢を学ぶ良いきっかけになりました。

年間を通して仕事の受注時期を把握することにより、効率的な受注を心掛けた結果、仕事全体の受注量増加となり、工賃の向上に結び付けることができました。

作業実績

	年間売上額	年間工賃支給額	月平均工賃額
生活介護	185,810 円	177,828 円	1,411 円
就労継続 B 型	5,535,452 円	5,141,401 円	19,699 円
合 計	5,721,262 円	5,319,229 円	13,745 円

2 年間行事

ほぼ予定どおり実施することができました。みなさんの希望に沿えるよう企画し、大勢の方が参加し楽しんでいただけたよう努めました。

V 地域生活支援センター コロニー

利用状況

施設名称	利用者数	備 考
グループホーム 「さいなみほ〜む」	3 名	バックアップ施設=ワークサポート篠ノ井
グループホーム 「うわのほ〜む」	3 名	バックアップ施設=はあてい若槻

担当支援員及び世話人が連携を図りながら係ることで、利用者の皆さんは安定した状況で地域生活を送ることができました。

VI 相談支援事業所 あいくる

昨年度は、安定した依頼を受けることができ、専任相談支援専門員中心に兼務相談支援専門員においては、本体業務との調整をしながら、人数配分を行い対応することができました。

VII 指定短期入所事業

利用状況

延べ人数	延べ日数
25 名	52 日

利用される方の状況に合わせたサービスの提供と、個々に必要な支援を行いました。通所利用の方は自立支援と位置づけ対応ができました。

VIII 長野福祉工場（就労継続支援 A 型事業所）

利用者状況

就労継続支援 A 型
40 名

印刷担当者の中途退職に伴い急遽オンデマンド印刷機の導入を行い対応に努めた
が、印刷担当者の確保・育成は、営業担当者及び制作担当者と同様に今後の検討課題

となりました。

事業活動収支は、前年度よりは約 943 万円悪化し、約 1,120 万円の差損となり厳しい状況となりました。障害福祉サービス等事業では利用者数の減少により、利用率が減少し訓練等給付費及び雇用報奨金の収入が、前年度より約 1,114 万円減額となりました。就労支援事業で縫製事業は前年度より約 237 万円改善したものの、印刷事業が約 477 万円悪化し、特例事業と合わせ約 249 万円悪化し約 2,466 万円の差損となりました。

資金収支は、就労支援事業及び障害福祉サービス事業等の事業活動による収支では、前年より約 139 万円悪化し約 274 万円の不足となりました。施設整備等では約 568 万円の不足となりましたが、その他の活動で本部からの借入金の増加もあり 352 万円の差益となりました。これらにより長野福祉工場合計では昨年より約 167 万円良化しましたが、約 490 万円の不足となりました。

1 就労支援事業

(1) 事業実績

印刷部門は売上が約 1,396 万円増加したが、外注加工費等の増額もあり加工高は昨年度より約 1,057 万円減少となりました。

支出では、人件費で社会保険料の未払い分を計上しましたが約 467 万円減少、諸経費約 420 万円減少したが、外注加工費、材料費等の仕入れが約 2,454 万円の増となり、経費合計では約 1,566 万円増加したため、収益は前年度より約 477 万円悪化し約 1,731 万円の差損でした。

縫製部門は、前年度より売上げが約 740 万円減少しましたが、材料費等の仕入れ、人件費、諸経費が減少となり、約 237 万円改善し約 733 万円の差損となりました。特例部門は減収減益ですが、利用人数が減っているため支給工賃に大きな変動はありません。

【部門別事業実績】

(単位:千円)

	売上高			加工高			
	当期実績	前期実績	前年比	当期実績	売上比率	前期実績	売上比率
印刷	356,715	342,750	104.07%	142,911	40.06%	153,486	44.78%
縫製	122,300	129,708	94.29%	28,402	23.22%	34,847	26.87%
特例	2,170	2,992	72.53%	1,556	71.71%	1,809	60.46%
合計	481,185	475,450	101.21%	172,869	35.93%	190,142	40.00%

(2) 賃金・工賃

賃金・工賃の推移は次の表の通りで、利用者の賃金総額は約 968 万円減少しました。利用者の賃金総額の減少は、利用者の延べ利用者数が減少したためです。一方で利用者賃金の平均月額が増加しています。これは、時間外労働が増加したこと等によるものです。特例利用者の工賃は、利用者の減員により総額は減少しましたが、時給及び平均月額が増加となりました。

【賃金・工賃の推移】	27年度	26年度	増減	増減率
賃金(平均月額)	141,906円	117,987円	23,919円	120.27%
賃金(総額)	66,412,015円	76,101,396円	-9,689,381円	87.27%
特例工賃(時給)	216円	170円	46円	127.06%
特例工賃(総額)	561,035円	635,577円	-74,542円	88.27%
特例工賃(平均月額)	18,701円	16,296円	2,405円	114.76%

(3) 施設整備

5月に中綴じ折製本機を新たに設置しました。また、1月にアグファ CTP 出力機の更新とオンデマンド印刷機を新たに設置しました。

2 障害福祉サービス事業

利用される方個々の状況等の把握に努め、障害の状況を踏まえた配置及び配置転換や作業内容の変更を行い、事業所内での定着に努めました。

職業指導では、全ての部署でのマニュアル作製や標準作業の確立、作業指示による時間の管理を目指しましたが、各部署によって進捗状況には差があり、次年度への課題となりました。また、就労支援事業の収益向上のための新規事業検討は進められませんでした。

(1) 利用の状況

利用状況は下表の通りで、2名が新しく利用を開始しましたが、体調悪化による退所者1名、自己都合による退所者3名(特例1を含む)の合計4名が退所しました。利用者数は期首より2名減員となっており、平均利用者数、平均利用率とも減少しましたので、必要に応じた新たな利用者の採用が課題となりました。

【利用契約者数の推移】	27年度	26年度	増減	増減率
期首	42(3)名	49(4)名	-7(-1)名	85.71%
期中最大	43(3)名	51(3)名	-8(0)名	84.31%
期末	40(2)名	45(3)名	-5(-1)名	88.89%
延べ利用者数	8,748名	10,117名	-1,369名	86.47%
開所日数	242日	243日	-1日	99.59%
年間平均利用者数	36.15名	41.63名	-5.48名	86.84%
平均利用率	90.38%	104.08%	-13.7	86.84%

※()内の数値は、特例利用者の人数を表します(総数を含む)。

(2) 職業指導

印刷、縫製の両事業とも経費削減の意識づけが不十分で継続課題となりました。

また、数年来の課題であるマニュアルの作成や標準業務の確立の必要性は理解されてきていますが完成には至らず、全体が人員不足で業務分掌によるOJTも進められませんでした。特に制作係ではいずれも遅れており、加えて人員減少による時間外労働の増加、制作量の減少も新たな課題となりました。全体的に作業手順や作業内容の不備によるミスも散見され、まだロスについては意識が薄く改善に着手されていません。次年度も業務マニュアルの補完及び技術向上のOJTを強化することと、ロスの削減や経費削減の意識づけを行います。

(3) 生活支援

特例利用者の希望による送迎を必要な都度行ったほか、保健相談・嘱託医の検診の補助、インフルエンザやノロウイルス注意報を受けての注意喚起などを行い、健康管理に留意するよう支援しました。インフルエンザ等の罹患者もありましたが事業所内での大きな蔓延はありませんでした。

(4) 研修

虐待防止、ゼンコロ主催の営業研修、社会福祉士受験資格取得のための講座受講など、内部及び外部の研修等に積極的に参加し見識を深めました。

3 管理部門

担当者の退職に伴う引き継ぎもありマニュアルや業務内容の見直しができました。

IX 障害児自立サポート事業所 すまいる

利用状況

登録者	小学部	中学部	高等部
	10名	5名	3名
実績	平均6~7名/日		

長野市自立支援協議会（長野市障害ふくしネット）のこども部会に出席し、他事業所の状況などをお聞きしながら、放課後等デイサービス事業への事業変更に向け、準備を進めることができました。

X 障害時自立サポート事業 ふれんど

利用状況

登録者	小学部	中学部	高等部
	0名	4名	1名
実績	平均2~3名/日		

小規模ながら利用人数、活動等、安定した取り組みができました。

※本文中の人数・金額等のデータは、平成27年3月31日現在の内容です。